

# 令和6年度 上尾市立太平中学校 学校経営方針

校長 井浦 博史

## 1 学校教育目標

社会に貢献できる人材の育成

## 2 学校経営基本方針

### (1) 基本理念

「社会に貢献できる人材の育成」 校訓 凡事徹底

将来の予測が困難な時代（VUCA（※1）の時代）において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていくことは、社会全体の課題である。この社会課題の解決を、経済成長と結び付けてイノベーションにつなげる取組や、一人一人の生産性向上等による、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要である。特に Society5.0（※2）で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成が今後の教育に求められている。

また、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方について一人ひとりが意識し、考え続ける時代である。幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協調的・幸福と獲得的・幸福のバランスを重視し、日本発の調和と協調（Balance and Harmony）に基づくウェルビーイングを発信する教育活動の実現が重要となる。

これからの学校教育では、これまでの学習を生かした上で、個別最適な学び、協同的な学びを手段として、最適解を導き出せる人材育成が重要となる。生徒に「何かを教える」ということにとどまるのではなく、一人一人の生徒が、信頼できる指標を持ち、VUCAとなる世界においても、自信をもって、自らを導いていくことができるよう手助けするものに変化していく必要がある。夢や希望を持ち、主体的に学び、考え仲間と協働して最適解を導き出し、力強く未来を切り拓こうとするたくましさを育まなくてはならない。

また、新たな感染症による不安定な社会情勢、自国第一主義といった、ともすれば利己的にも捉えられる国際情勢や、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の発達、一般化による肥大した示威行為も見られるなど、基本的人権を侵害する恐れもある。

本校の教育目標である「社会に貢献できる人材の育成」とは、先行き不透明な「予測困難な時代」を、自分のよさや可能性を自覚し、あらゆる他者を自分と同じように大切な存在として尊重し、多様な人々と共に手を携えながら、優しく豊かな社会の創り手となること、一人一人の生徒が、自分の将来

に夢や希望を持ち、学ぶ楽しさを実感でき、コミュニケーションを構築できる生徒の姿を示している。他者とともに生きる喜び、夢に向かって進もうとする意欲に満ちた日々の中で社会に貢献できる生徒は育つ。

中学校教育は人生を建設、構築する重要な教育活動である。本校では学力、生活の基礎基本、豊かな人権感覚（特別支援教育、合理的配慮）、健やかな身体の育成に、地域社会の中で保護者の十分な理解を得ながら連携を強め取り組んでいく必要がある。

また、「凡事徹底」とは、辞書には「なんでもないような当たり前のことを、徹底的に行うこと。または、当たり前のことを、他の追随を許さないほど極めること」という意味の四字熟語と示されている。「当たり前」のことを当たり前にするのではなく、人が真似できないほど「徹底的」にやるということである。勉強をする、掃除をする、仲良くする、このような当たり前のことを、意識せずにできるようになるまで、指導と支援を繰り返す。積み重ねることが大切ではないか。「師」とは、自らが常に学び続け、行動で伝える存在である。

#### ※1 VUCA（ブーカ）

Volatility（変動性…予測困難で変動が激しい状態）・Uncertainty（不確実性…不確実な状態）・Complexity（複雑性…様々な要素が、複雑に絡み合っている状態）・Ambiguity（曖昧性…曖昧ではっきりとした正解がない状態）

情報を収集する力・処理する力・迅速に意思決定する力・臨機応変に対応する力・円滑なコミュニケーションを取る力・自ら課題を解決する力・新たな価値を創出する力が必要とされている。

#### ※2 Society5.0（経済産業省HPより）

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）と定義されている。情報社会（Society4.0）が抱える課題に対して最新技術を利用して克服し、社会の変革を通じて日本が目指すべき未来社会の姿であると提唱された。

### 第3期上尾市教育振興基本計画

#### 基本理念「夢を育み 未来を創る 上尾の教育」

**夢を育み** 急速に進展する社会において、将来に明るい希望を抱き、しっかりと志を持って自己実現を目指すことのできる、知・徳・体の調和のとれた人間を育成する教育

**未来を創る** 一人一人が社会の変化に主体的に向き合い、多種多様なつながりの中で、互いの価値観を認め、互いを尊重しながら、よりよい社会や豊かな人生を築き上げていくことのできる人間を育成する教育

#### （2）基本理念の実現に向けて

○豊かな人権感覚の育成（道徳教育の推進、特別支援教育の充実）

思いやりの心の育成、公平、公正な社会づくり、多様な価値観を認め合

う姿勢・態度の育成、いじめ・差別の根絶

合理的配慮に関する教職員の意識改革

○GIGAスクールの推進

情報活用能力の育成（情報処理、技能）、ネット・リテラシーの定着（ネットモラル）、個別最適の学び（AIデジタルドリル）の実践

デジタル・シティズンシップ教育の実践

○特別活動の充実

集団活動の中での表現力・発表力の向上と合意形成までのプロセス、学校行事の工夫改善

包括的性教育の推進

### 3 学校教育目標具現化のために

#### （1）目指す学校像

確かな学びを育む学校

あいさつが溢れる学校

綺麗で落ちついた学校

地域とともにある学校

#### （2）目指す生徒像

○一生懸命学びに取り組み、自ら課題を設定し、主体的かつ協働的に課題を解決していく生徒

- ・表現力、発表力の向上、自分の考えを適切に表現することができる
- ・自ら課題を定め、主体的に課題に取り組み、思考を継続し最適解を求める。協働的な学習、情報活用能力の育成、読書の習慣化

○多様な考え方を認め、自分と他者を大切にできる生徒

- ・様々な人権的課題を理解し、多様な考え方を認める
- ・いじめを「しない」「させない」「許さない」
- ・ていねいな言葉づかいで、相手を思いやる気持ちをもつ
- ・差別を許さない、豊かな人権感覚を身に付ける

○社会の一員としての自覚と責任をもち、自ら進んで行動ができる生徒

- ・社会の一員としての自覚と責任
- ・正しく判断し、適切な行動
- ・深い思考と配慮ある言動

○心身共に健康で、規則正しい生活ができる生徒

- ・早寝、早起きを心がけ、規則正しく生活する習慣を身に付ける
- ・進んで体を動かし、たくましい心と体をつくる
- ・健康で安全な生活、感染症対策
- ・心身への正しい理解

### (3) 目指す教師像

- 確かな学びを導くことのできる教師【生きる力を育む】  
【学ぶ喜びを育む】
- 生徒とともに行動できる教師【絆を育む】
- 研究と修養に努め続ける教師【学ぶ喜びを育む】
- 生徒に信頼される教師【生きる力を育む】【絆を育む】
- 生徒の心に寄り添い、温かな人間関係を築く教師【絆を育む】
- 教育に携わる者としての自覚と責任をもつ教師  
【生きる力を育む】

※上尾市教育指導計画基本方針(目指す教師像)

自分に厳しく、相手に優しくできる人間として、児童生徒、保護者、地域、同僚から「頼もしい」と信頼され、授業で勝負し、頼られる教師。

#### 【教職員の行動指針】

##### ○教職員行動の原則

- ・生徒に近い方から優先（子供が最優先）
- ・いじめの兆候を感じ取る
- ・安全・安心を第一に（交通事故防止、ネット・リテラシー、感染症予防）
- ・報告・連絡・相談・確認の徹底（情報連携）

##### ○学校マナーアップの推進

- ・「あいさつ」は自分から（明るく元気に）
- ・「身だしなみ」は相手のため（身、ものを整える）
- ・「言葉遣い、態度」は優しく、美しく（節度、誠実）

#### 【教職員としての心構え】

- 教育公務員として、法令を遵守する。
- 国、県、市の教育振興基本計画等の趣旨を踏まえ、全教職員の総力を結集して教育活動を実践し、学校教育目標の実現に努める。
- 教職員事故の根絶。
- 常に謙虚で誠意ある姿勢をもって職務に精励し、保護者や地域社会の負託に応える。
- 生徒の健康・安全・安心を基盤とした、魅力があり充実した教育活動を推進する。
- 教職員一人一人の教育的情熱のもと、教育の専門家としての自覚を持ち、組織としての学校力によって、未来を担う生徒一人一人の夢や目標の実現を支援する。
- 率先垂範、規範に則る行動

#### 4 重点項目

##### (1) 学びの質を変える。《学びの改革》

- 伝統と文化を尊重し、グローバル化や技術革新に対応する教育の推進
- 自ら考え最適解を求める協働学習としてTLIに取り組む。

TLI… 太平 ラーニング イノベーションの略

(Taihei Learning Innovation) 複数解のある課題に取り組む

- 基礎的・基本的な学力の確実な定着

家庭学習と授業をリンクし、学習量を担保して、学力を向上する。

デジタル教材の活用、見通しのある授業、学習のまとめを充実する。

- 主体的、対話的で深い学び、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

自ら学び考え、協働して思考をまとめ、適切な表現で発表する。

- あげお学びのイノベーションの推進

GIGAスクール構想。これまでの教育実践と先端情報機器の融合による新たな学習を推進する。

デジタル・シティズンシップ教育の推進。自律的にデジタル社会と関わり、安全・安心に機器等を利用できる力を育成する。(SNSなど)

試行錯誤を繰り返しながら最適解を探究する。

- 英語教育の充実上尾市英語力向上プランの推進

～世界にはばたくかがやキッズ～進んで英語を話す。

国際理解教育の推進 外国とのふれあい ダイバーシティ

##### (2) 生徒の自己有用感を高める取組を行う。(レインボープラン)

《課題予防的生徒指導》(改訂版生徒指導提要より)

- いじめを「しない」「させない」「許さない」
- 豊かな人権感覚(今日的な人権課題と差別の解消)を育成する。
- 相手の立場で考えることのできる児童を育てる。
- 欠席しがちの生徒への柔軟な対応(レインボウ・ルームの設置)
- 家庭、地域社会、関係機関等と連携した生徒指導

##### (3) 全職員ですべての生徒を見る教育相談体制を強化する。《共感的教育相談》

- 体験的な集団活動を通して協働意識を醸成する。
- 自己有用感、自己肯定感を高める指導・支援を工夫改善する。
- 生徒と触れあう時間を確保し生徒理解を深める

##### (4) 小中一貫教育の推進

- 9年間を見通した教育活動
- 中学校区の児童生徒の交流、教職員の相互交流

##### (5) 積極的な情報発信により保護者との認識共有を図る。《情報共有》

- 家庭、地域社会との連携強化と情報共有
- 学校行事、学習活動のオンライン、オンデマンド配信
- 報告、連絡、相談、確認による教職員間の情報共有

- (6) コミュニティ・スクールとしての取組を拡大する。《地域連携推進》
  - 地域、家庭、学校の役割の確認と連携の充実。
    - 三者それぞれが応分の責任をもつ
  - デジタルを活用した教育活動の発信
    - 学校ホームページ、配信メールの充実
- (7) 教職員の在校時間を減らす。《働き方改革》
  - サービスの厳正（教職員事故根絶）
  - 働き方改革の推進（働き方の意識改革）
  - クリティカルシンキング（批判的思考）による業務改善
    - 積極的かつ効率的な学校行事等の業務改善
  - 生成 A I の効果的な活用
  - 部活動地域移行

## 5 具体的な方策

### (1) 学びの質を変える。

**何ができるようになったか。何をどのように学んだか、何が身についたのか、学びを探究する生徒の育成を目指す。**

令和の日本型教育(中央教育審議会答申令和3年1月26日)

これまでの教育振興基本計画で掲げられた「自立」、「協働」、「創造」の3つの方向性を実現させるための生涯学習社会の構築を目指すという理念を踏まえ、学校教育においては、子供たちの多様化や教師の長時間勤務による疲弊、情報化の加速度的な進展、少子高齢化・人口減少、感染症等の直面する課題を乗り越え Society5.0 時代を見据えた取組を進める必要がある。これらの取組を通じ一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようその資質・能力を育成することが求められている。このためには明治から続く我が国の学校教育の蓄積である「日本型学校教育」の良さを受け継ぎながら更に発展させ、学校における働き方改革と GIGA スクール構想を強力に推進しながら新学習指導要領を着実に実施することが求められており、必要な改革を躊躇なく進めるべきである。

その際、従来の社会構造の中で行われてきた「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、本来の日本型学校教育の持つ授業において子供たちの思考を深める「発問」を重視してきたことや、子供一人一人の多様性と向き合いながら一つのチーム目標を共有し活動を共に行う集団としての学びに高めていくという強みを最大限に生かしていくことが重要である。

誰一人取り残すことのない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向け「持続可能な社会の創り手」を求める我が国を含めた世界全体で SDGs（持続可能な開発目標）に取り組み、ツールとしての ICT を基盤としつつ日本型学

校教育を発展させ令和元年からの10年間を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」と名付ける。

このような背景、課題、目標等をもとに、本校では生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせるため、以下の重点項目に取り組む。

### ○教職員一人一人が自己研鑽に励み、生徒一人一人に「学びがい」を味わわせることのできる専門的な指導力を高める。

- ・アクティブラーニング（主体的、対話的で深い学び）
- ・自らの言葉でまとめ、表現する
- ・カリキュラムマネジメント（教科等横断的な視点による指導計画）
- ・教育課程の編成、実施、評価、改善のPDCAサイクルによる指導
- ・学校外の人的・物的資源及び地域等の資源を組み合わせた学習指導
- ・情報端末の活用、プログラミング的思考（論理的・合理的な思考）、最適解を求める、情報の収集・分析・処理・活用などの情報活用能力を育成
- ・ユニバーサルデザイン、様々な人権課題への対応、誰にでも優しい社会、同和教育、性違和に関する指導、合理的配慮

教師の指導力とは、生徒一人一人に「学びがい」を味わわせ、生徒自らが自分の能力を高めようと努力しているか、その姿によって決定される。

「教育」とは「教え」「育む」こと、「指導」とは「道を示し」「導く」ことである。生徒一人一人が自分の特徴、特性を理解し、自分の力を自分で最大限に伸ばせるよう「教育」し「指導」することが教師の職責である。

### ○見通しと振り返りのある授業

- ・授業において学習手順と方法が準備され、生徒が一人で学んでいけること
- ・学習課題が明確で分かりやすく詳細に示され、生徒一人一人が学習の要点を理解できるようになっていること。
- ・学習への動機付けが創意工夫され、集中して取り組む活動が用意されていること。
- ・教材に応じて発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどの活動を取り入れること。

「見通し」は、授業をデザインする上でベースとなる。令和5年度学校評価結果から、わかる授業を展開するために計画的、継続的に取り組むより、おおむねよいとされている。しかし、標準的な学力調査結果からは、十分に基礎的・基本的な学力に課題もあり、まとめや振り返りといった学習内容の定着についてはさらに徹底する必要がある。授業デザインに加え、AIドリル等のデジタル教材を活用するなどして、学習量の増加と学習内容の定着に努める。

## ○あげお学びのイノベーション

- ・一人1台情報端末の活用について、実践しながら授業改善を図る。
- ・令和の日本型教育では、個別最適な学び、協働的な学びの実現が強く求められており、「教え学ばせる」ではなく「何のために何を学ぶのか、学んだ事をどう生かすか」という生涯学習的なスタイルに変わっていく。これからの教員には専門職としての「学びのファシリテーター、コーディネーター」としての役割が求められる。

## ○世界にはばたくかがやキッズ上尾市英語力向上プラン

### ～進んで英語を話せる上尾の子を育てる～

- ・上尾市は教育課程特例校「英語活動」の指定を受けており、この機会を積極的に捉え、英語教育の充実を図る。
- ・ALTとティームティーチングを行う。
- ・国際理解教育の視点からALTとのイングリッシュルームを開設

## ○特別支援教育の視点に立った授業

- ・合理的配慮による教育活動。例えば、黒板に赤いチョークで文字を読みにくいと感じる生徒は男子で20人に1名、音声言語では理解しにくいですが、文字→画像などビジュアルであれば理解できる生徒もいる。
- ・ダイジー教科書の活用
- ・学習理解の阻害要因は何か、特別支援教育の視点から学習活動全体を見直す。誰もが同じように理解できるような授業展開、教材等について工夫改善する。

## (2) 自己有用感を育てるために・・・教育相談の充実

**社会を構成する一員としての自覚のもとに、思いやりの心を持ち、差別を許さない、心豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成を目指す。**

日本経済団体連合会が関係する企業に実施したアンケートによると企業が求めている資質や能力は以下のとおりとなった。

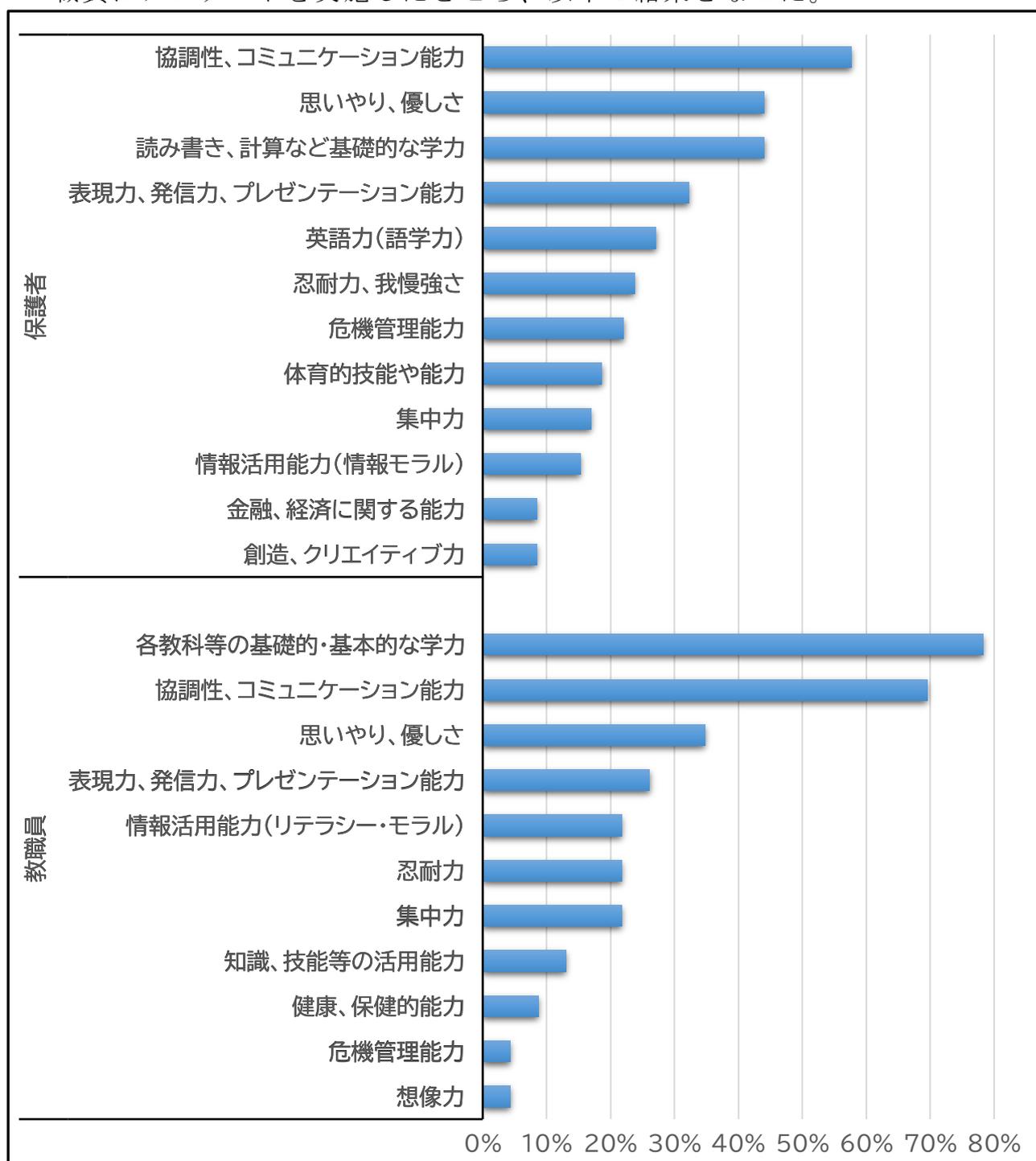
(調査期間令和3年8月4日～令和3年10月1日)※令和4、5年度未実施

- ・特に期待する資質主体性(84.0%)、チームワーク・リーダーシップ・協調性(76.9%)、実行力(48.1%)
- ・特に期待する能力課題設定・解決能力(80.1%)、論理的思考力(72.1%)、創造力(42.6%)
- ・特に期待する知識文系・理系の枠を越えた知識・教養(84.7%)、専攻分野における基礎知識(75.8%)、専攻分野における専門知識(61.8%)

期待する資質については主体的に取り組む姿勢・態度・意欲そして、チームワーク(コミュニケーション能力)となっている。これは、今後ますます予

測困難で先行き不透明な社会を自らの力で、仲間と共に切り拓こうとする人材を求めているのではないかと思われる。また、能力としては、Society5.0時代において求められる能力として産学協議会で認識が一致したものとなっており、自ら課題を設定し論理的に最適解を求める力と考えることができる。また、知識に関しては、リベラルアーツ、文理融合教育などゼネラリストとしての知識が求められているのではないだろうか。

また、本校で子供に身に付けさせたい資質、能力について保護者および教職員にアンケートを実施したところ、以下の結果となった。



このような現状を見据えた上で、これからの時代を担う子供たちに必要な資質、能力を育てることが重要である。そこで、以下の点を重点として設定

した。

### ○あいさつ、礼儀

- ・協調性やコミュニケーション能力には2つの面がある。
  - ア セルフコミュニケーション（自分自身との意思疎通、学校では自己肯定感、自己有用感と呼ぶことが多い）
  - イ 対人コミュニケーション（人に対して自分の気持ちや意見を伝え、相手と通じ合うこと 一般的なコミュニケーション力とよばれるもの）この2つを相互に関連させながら育成することが重要である。  
よって、あいさつ、礼儀を身につける上では、「あいさつができる自分、自律心」といった自分との対話に加え、相手へのアプローチの仕方についても学ぶことが重要である。
- ・朝の会や授業時など定められた場面でのあいさつや礼儀について学ばせると共に、休み時間などリラックスしているときの気軽なあいさつや相手を思いやる姿勢・態度についても育てていきたい。

### ○「居がい」のある学校、学級づくり

- ・生徒を認め、褒めて育てる教育活動（意図的、計画的に）
- ・叱るべき時は、生徒が理解できる言葉で叱り、生徒自身が内省し行動等を変革できる力を育てる。
- ・生徒が本来持っている「自ら育つ力」、「やる気」、「欲求」（自己顕示欲、所有欲、創造欲など）を肯定的（承認、需要、奨励、共感など）により出現させるような声かけを行う。
- ・生徒ができること、すべきことは生徒に行わせる。
- ・一人1台端末を活用し、自分の思いや意見を自分の言葉で分かりやすく相手に伝え、相手の意見を傾聴する協働的な学びを重視する。協働型学習については、Classroom、コラボノート、Jamboardなどを活用し他授業を一層推進する。



### ○健康の保持増進、安全対策

- ・体育授業の工夫（暑さ対策、けが等防止対策を講じた体育授業）・養護教諭とのティームティーチングによる健康教育に関する授業（健康教育、包括的性教育等）
  - ・産婦人科医、助産師を招いての計画的、継続的な包括的性教育
- ※ 包括的性教育…身体や 生殖の仕組みだけでなく、人間関係や性の多様性、ジェンダー平等、幸福など 幅広いテーマを含む教育

- ・交通安全指導の充実（交通安全教室の実施、連休前、長期休業前には必ず交通安全指導を実施）
- ・防災学習の実施、年6回の災害、状況別避難訓練実施（うち1回は上尾市一斉小中学校避難訓練、不審者侵入対応訓練）  
水害対策として垂直避難訓練等の実施

### （3）保護者との共通理解、コミュニティ・スクールの推進

- 家庭、地域社会への情報発信（オンライン、紙面）と情報収集
  - ・学校は地域社会の一員であり、生徒は家庭の一員である。家庭、地域社会との連携なくしては教育活動の成果を上げることはできない。教育的な見地から見ると家庭や地域社会の文化や風習の中には、必ずしも生徒にとって望ましいものとはいえないこともある。それを踏まえた上で、生徒の背景を理解し、家庭や地域と連携していくことが重要である。
  - ・令和5年度に実施した「読み聞かせ」、「あいさつ運動」、「生徒との熟議」「太平ゼミ」等の活動を地域等に広めるとともに、地域を巻き込み、地域人材を活用した学校運営協議会主催行事を実施。
  - ・生徒参加のボランティア活動を推進する。リサイクル活動、夏祭り、ぐるっとくん地域巡り等への参加、（留意点→教職員の負担軽減）

### （4）働き方を変える。意識を変える。

- 校務の効率化、組織化等をさらに推進
  - ・今、していることは、「すべきこと」か。学校の体制や組織は適切か。常に考え、改善策を一人一人が考え提言する。クリティカルシンキング、ボトムアップによる学校システムの再構築
  - ・校務分掌の明確化と分散化
- 統合型校務支援システムの効果的な利用
- 部活動の見直し（部活動地域移行を念頭に置いた見直し）
- 家庭、地域社会と応分の教育的役割分担を行うことによる教育活動の一層の充実を図るとともに、教職員の負担軽減に取り組む。
- 信頼される学校、教職員
  - ・サービスの厳正（職員研修の定期的、不定期の実施）
  - ・教育公務員としての自覚、生徒の教育に携わるものとしての責任
  - ・生徒は未来を作るクリエイター